

プロジェクト課題NO.1

ほ場整備を契機とした営農体制の整備

活動期間：令和6年度～令和7年度

対象者：株式会社大輪

チーム員：大槻恵太、青沼達也、永田悦祈

1 課題の背景・ねらい

(1) 背景

- ・ 大和町吉田金取北地区は、稲作を中心とした中山間地域。令和3年に農地中間管理機構関連農地整備事業予定地区（受益面積42.6ha ※賃貸借）に採択され、新たな担い手組織に地区内の全ての農地を集積される予定。
- ・ 新たな担い手組織として、令和5年5月に**株式会社大輪が設立**。同法人を核とした**持続可能な営農体制づくり**に向けて、**急激な農地集積への対応や法人経営の安定化**が課題となっている。

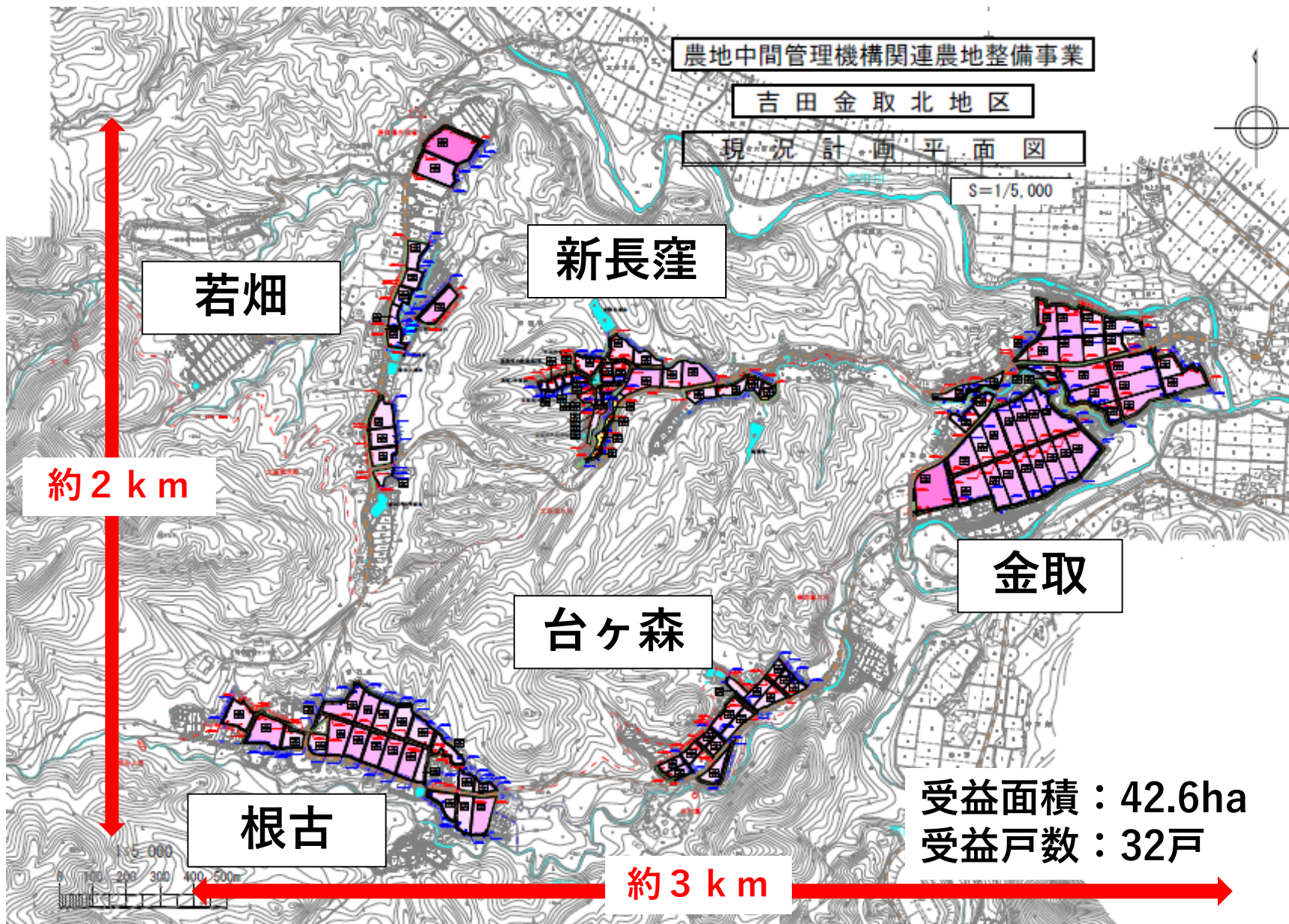
【株式会社大輪 概要】 経営概要：水稻24ha、大麦5.5ha、大豆6.9ha、園芸品目1ha（ピーマン、ねぎ、さつまいも、はくさい）
構成員等：役員1名、正社員1名（令和6年4月より新規雇用）、パート社員1名

(2) ねらい

- ・ 新たに集積された農地の特性を把握し、農地ほ場環境に適した農地利用が図られる。
- ・ 収益性の高い野菜生産が拡大され、規模に応じた栽培方法が習得される。
- ・ 企業として従業員を雇用するための環境が整備される。

【定量的数値目標】 地区営農計画※ R5（現況）：0 → R6：0 → R7：1

※株式会社大輪による営農計画の作成、地域への説明、地域の実情が得られたもの

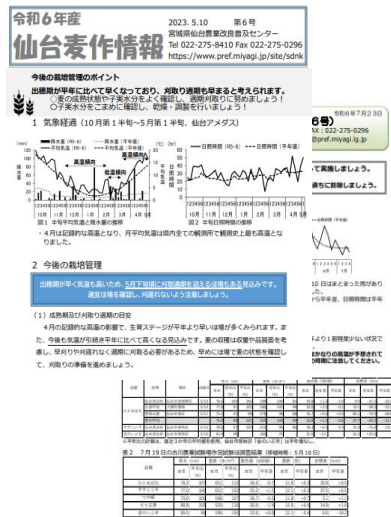


- ・ 県立自然公園船形連邦・七ツ森に囲まれ、一級河川吉田川沿いに耕地が広がる中山間地域
- ・ 高低差があり、低いところに位置するほ場は排水不良により、畑作物が栽培しにくい

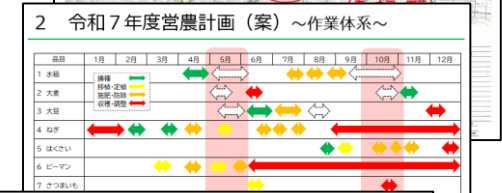
2 活動内容

(1) 農地の効率的利用支援

【生産技術】



【営農体制】



2 令和7年度営農計画(案)～生産計画～

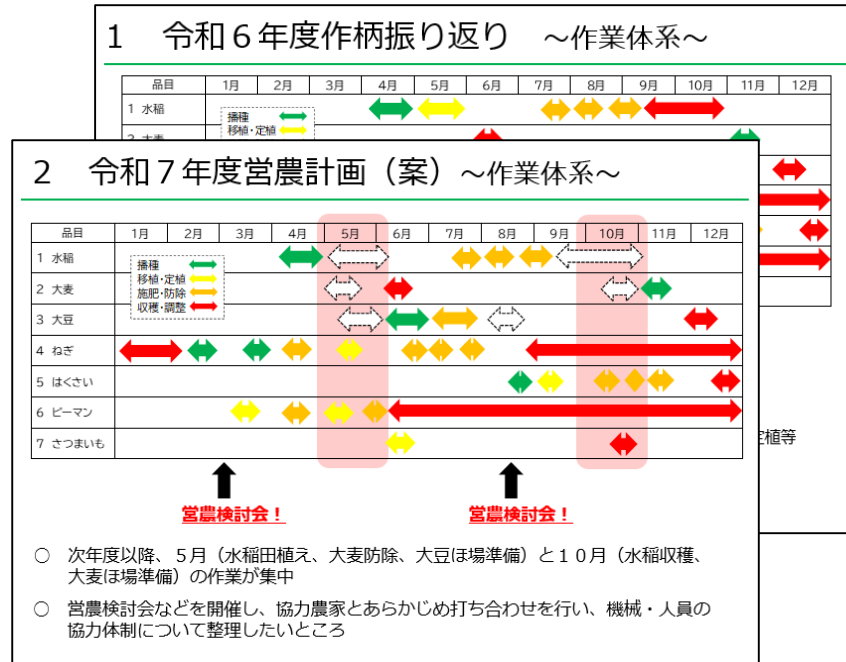
品目	面積 (ha)	収量 (kg/10a)	単価 (円/kg)	交付金 (円/10a)	売上高 (円)	高価市場 (円)	備考
1 水稲	35.0	450	250	0	39,408,750	2,589,361	
2 大豆	2.0	180	68	48,200	244,800	▲287,706	
3 大麦	8.0	120	173	43,646	1,660,800	1,745,955	
4 牧草	0.58	1,365	350	30,000	2,760,800	1,458,031	



- ・ 水稻、大麦、大豆の技術的支援（防除適期、収穫適期等の情報提供）
- ・ スマート農業実践支援（ドローンで使用可能な薬剤情報の提供）
- ・ 営農管理システムを活用したほ場管理データの蓄積を意識付け
- ・ 大豆機械整備に係る補助金活用支援（普通コンバイン、ブームスプレーヤー）
- ・ 今年度の振り返りと次期営農計画（生産計画、作業体系、土地利用）の検討支援

2 活動内容

(2) 園芸部門の拡充支援



ピーマン (12a)



さつまいも (21a)



ねぎ (58a)

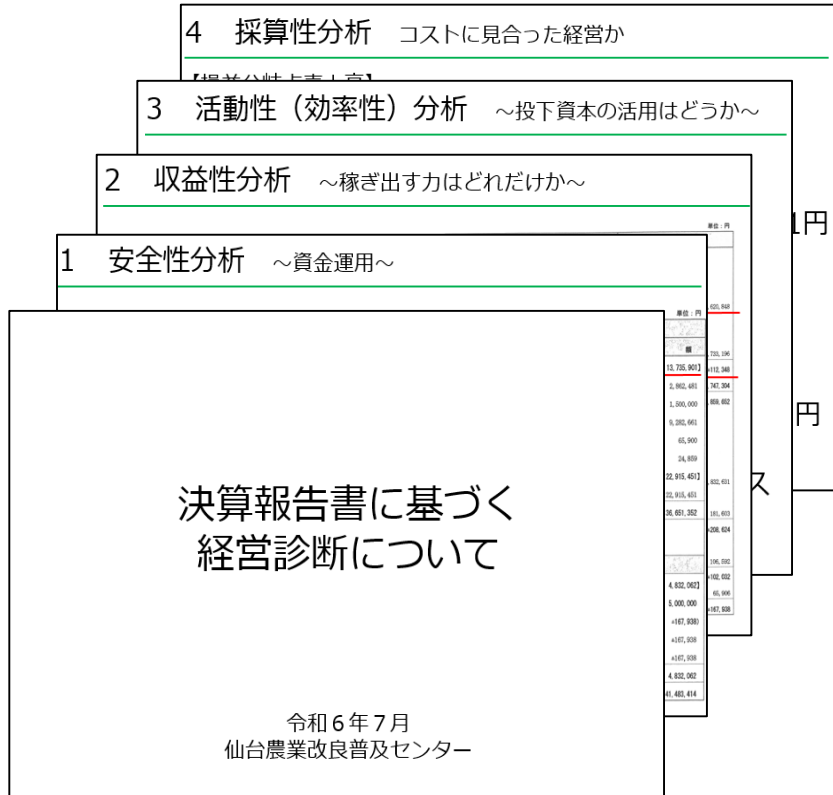


はくさい (11a)

- ・ 定期的な巡回指導（肥培管理・病虫害防除など）
- ・ 今年度の振り返りにより、土地利用型品目との作業競合について整理。作型や販路を含めて次年度の生産計画の検討を支援

2 活動内容

（３）雇用の定着と環境整備支援



経営と雇用に関する意見交換



専門家との意見交換(経営相談会)

- ・ 経営診断により、会社経営（安全性、収益性、活動性、採算性）と資金繰りの状況を「見える化」
- ・ 自社の経営状況を踏まえ、安定した雇用・定着に向けた意見交換を実施
- ・ 農業経営・就農支援センターと連携した専門家との意見交換（会社経営・就労環境）

3 これまでの活動成果

(1) 農地の効率的利用支援

- 大豆の機械整備が行われるとともに、営農管理システムを活用したほ場管理データの蓄積が開始された。
- 今年度の生産実績等を踏まえ、営農上の課題や対応策について検討が図られるとともに、経営面積拡大に向けて今後の営農や農地利用の方向性への理解が深まった。

(2) 園芸部門の拡充支援

- ねぎ、ピーマンに加え、新たに作付けしたさつまいも、はくさいを含め、栽培技術の習得が図られ、収益性が向上した。
- 今年度の生産実績を踏まえ、生産品目・作型・販路の改善に向けて検討が行われ、方向性が見いだされた。

(3) 雇用の定着と環境整備支援

- 経営状況を踏まえた雇用や雇用人材の定着に向けた意識が醸成され、専門家を交えて就労環境整備（就業規則作成等）に向けた検討が開始された。

【今後の営農・農地利用の方向性】

項目	次年度の作付面積	主な対策	今後の方向性
全般	—	効率的な土地利用	排水性・均平を考慮した作付品目調整 麦・大豆・園芸品目の団地化
水稲	拡大 (約10ha増)	単収増加 (赤字改善)	施肥体系・水管理方法の見直し
		苗不足への対応	地域内農業者との協力調整 乾田直播栽培の導入
		適期作業の実施 (田植え・稲刈り)	品種構成の検討(早生・中生・晩生) 乾田直播栽培の導入
麦類	減少 (約4ha減)	単収増加 (赤字改善)	排水対策(明渠、心土破碎)の実施 生育不良の場合は大豆転換を検討
大豆	拡大 (約2ha増)	単収増加	排水対策(明渠、心土破碎)の実施
		適期作業の実施 (播種・収穫)	品種構成の検討(中生・晩生) ほ場準備(施肥・排水対策等)の前倒し
ねぎ	維持	作型見直し	主要品目として生産。流通量の動向踏まえ、出荷期間の長期化(夏ねぎ、秋冬ねぎ)を図る
ピーマン	維持	栽植密度見直し	主要品目として生産。作業性を踏まえ、収量目標は維持しながら、栽植密度を減らす
さつまいも	減少 (約10a減)	検証継続	直売中心の販路で、秋冬期間の現金収入に寄与。作業量を踏まえ、面積は減らす。
はくさい	維持	ほ場の有効活用	はくさいの定植・収穫は8～12月。ほ場が空く期間の活用方法を検討

4 令和7年度の活動

(1) 地区営農体制の確立と農地の効率的利用支援

- ・ 地域との協力による「地区営農計画」の策定支援
(集落への営農計画説明)
- ・ 営農体制の把握・改善支援（営農管理システムの活用・定着）
- ・ 新たに導入する乾田直播栽培の技術習得支援

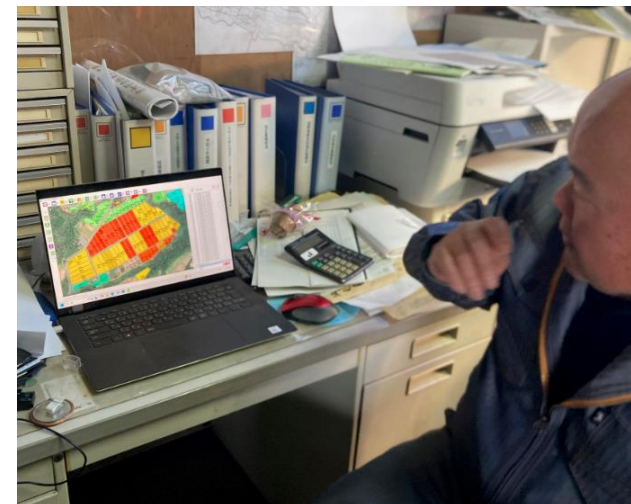
(2) 園芸部門の高収益化支援

- ・ 肥培管理技術の取得支援
- ・ 高収益化に向けた品目選定・作型・販路等の助言

(3) 経営方針の策定と従業員の雇用環境整備支援

- ・ 経営支援（経営方針の策定、資金繰り管理の習得、設備投資計画の作成）
- ・ 就労体制整備支援（就業規則作成等）

地域の核となる担い手として、持続可能な営農体制（経営の安定化、農地集積対応、人材確保、地域協力等）が構築されるよう、引き続き支援していく。



【営農管理システムの活用に着手】